

## 障害や慢性疾患を抱える個人のストレスと対処法に COVID-19 が与える影響の調査

### 【文献の概要】

COVID-19 が障害や慢性疾患を抱える人々の精神面に与える影響や、彼らが COVID-19 に関連するストレスにどのように対処しているか示されている。

### 【文献のカテゴリ】

原著

### 【文献の内容】

目的：慢性疾患や障害を抱える人々が COVID-19 によって受けるストレスの程度とコーピングの方略、その方略が well-being（幸福）と相関するかどうかを記述すること。

デザイン：横断研究

対象：米国在住の Amazon MTurk というウェブサービスの登録者

適格基準：上記サービス登録者のうち、①18 歳以上、②慢性疾患または障害があると自己申告した者、③COVID-19 パンデミックを認識している者、④自己決定能力がある者。（本研究では、「障害」と「慢性疾患」を同義として扱った）

方法：2020 年 4 月から対象者にインターネット上で調査を実施。基本特性の他、COVID-19 により受けたストレスの程度、それに対するコーピング方略、well-being（幸福）の程度、抑うつ・不安の程度を測定。COVID-19 によるストレスとコーピング方略との相関と、どのコーピング方略が幸福と相関しているかを階層的重回帰分析により解析。

結果：

- ・ 回答者 269 名（平均年齢 39 歳、男性 56%、既婚 54%、白人 84%、大卒以上 69%）
- ・ COVID-19 によるストレスと有意な正の相関を認めたストレスに対するコーピング方略は、「気晴らし」「否認」「アルコール・薬物使用」「行動的諦め」「感情表出」「計画」「宗教・信仰」「自己非難」であった。
- ・ 階層的重回帰分析の結果、コーピング方略のうち「積極的コーピング」「否認」「情緒的サポートの利用」「ユーモア」「宗教・信仰」が幸福と有意な正の相関を、「自己非難」が有意な負の相関を認めた。

考察：

- ・ 障害や慢性疾患を抱える人々は、COVID-19 に関連する中程度のストレス、抑うつ、不安を示した。
- ・ 障害や慢性疾患を抱える人々が一般的に用いるストレスの対処法は「受容」「気晴らし」であり、COVID-19 の存在を受容し、他の活動に気を逸らすことで対処する傾向がある。「否認」や「アルコール・薬物の使用」といった対処法を用いる者は少なかった。

- ・一方、より強いストレスを感じている場合、「気晴らし」「否認」「アルコール・薬物の使用」「行動的諦め」「感情表出」「計画」「宗教・信仰」「自己非難」といった対処法を用いやすいことがわかった。
- ・ストレスコーピング方略のうち「積極的コーピング」「否認」「情緒的サポートの利用」「ユーモア」「宗教・信仰」をより用いる者および「自己非難」をより用いない者ほど幸福度が高かった。
- ・ストレスコーピング方略のうち「否認」(COVID-19の存在を認めない)は、幸福度を高める可能性が示された。否認に関して先行研究では、健康に対するマイナスな影響とプラスな影響の両者が報告されている。このうちプラスな影響は短期的なものであった。今回のCOVID-19が新たにかつ急激に生じたストレスであると考えれば否認の方略はこうした短期的なストレスにはプラスに作用したと考えられ、長期的な幸福度との関連は不明である。
- ・本研究の限界：インターネットが使用できウェブ調査が自力で可能な者が対象であった、白人・高教育歴・英語を話せる人が大半だった、社会的望ましさや自己選択などのバイアスの可能性、慢性疾患や障害がない者との比較を行っていない、コーピングストラテジーの測定指標(Brief-COPE)のサブスケールの一部の信頼性が低い。

【この文献から地域理学療法を展開する上で参考になること】

- ・COVID-19が障害や慢性疾患を抱える人々に及ぼす潜在的な悪影響や、その対処法について理解するための参考になる。
- ・横断研究であるため結果の解釈には注意が必要である。

【出典】

Umucu E, Lee B. Examining the impact of COVID-19 on stress and coping strategies in individuals with disabilities and chronic conditions. Rehabil Psychol. 2020 May 14. doi: 10.1037/rep0000328.

発行日：2020/8/11

文責：佐久総合病院 深町光太郎